

## 久留米大学を受診した患者さんへ

「久留米大学病院感染症外来に渡航後の健康被害のために受診した症例の検討」の研究に使用する試料について

---

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間：2008年4月から2019年3月
  - 2) 受診科：感染症外来
  - 3) 対象疾患名：渡航後の健康被害全て（狂犬病曝露後接種や渡航者下痢症など）
  - 4) 使用する試料：診療記録
- 

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

**研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。**  
**ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。**

### 1) 研究組織：

所属：久留米大学 感染制御学講座

研究代表者：久留米大学 感染制御学講座 教授 渡邊 浩

### 研究分担者：

久留米大学 感染制御学講座

准教授 濱田 信之

講師 升永 憲治

助教 岩橋 潤

助教 八板 謙一郎

久留米大学病院 薬剤部

副主任 酒井 義朗

2) 研究の意義と目的：我々は2008年より感染症外来の中で、海外中で何らかの健康被害を受けた患者さんを受け入れてきました。このような患者さんについて日本からも報告はありますが、症例報告が多く、まとまった報告は少ないのが現状です。この報告で、受診者の傾向について検討し、今後の渡航前外来の普及に繋げていくのが目的です。

3) 研究の方法：後ろ向き研究（症例報告）・前向き研究（症例報告）、比較研究（長期渡航

者群、短期渡航者群)

4) 研究期間：平成 26 年 12 月倫理委員会承認後～平成 31 年 12 月

5) 上記の試料の使用を選定した理由：渡航後の健康被害について明らかにするため。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：名前、イニシャル、住所、正確な入院の日付について記載はしません。

7) 研究成果の発表の方法：学会や論文形式で発表します。

8) その他：特記事項なし

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学病院感染病学講座 助教 八板 謙一郎

研究番号/4214